

令和 7 年度

学校評価報告書



令和 8 年 3 月

富山大学教育学部附属小学校

学校評価報告書 目次

I	はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
II	学校運営に関する評価計画	・ ・ ・ ・ ・ 1
III	重点的な取組	・ ・ ・ ・ ・ 2
IV	学校評価結果（教員・保護者・児童）	・ ・ ・ ・ ・ 4
	・ 前期評価	
	・ 後期評価	
	・ 温かな心を育成するための取組	
V	第1回学校評議員会より	・ ・ ・ ・ 2 3
	・ 中間評価の結果・考察・改善事項を伝える	
VI	第2回学校評議員会より	
	・ 年度末評価の結果・考察・改善事項を伝える	・ ・ ・ ・ 2 8

I はじめに

1 教育目標

「奇跡の星「地球」に生きる、心豊かでたくましく創造的な人間の育成」

2 目指す子供像

「自ら考え判断し、行動できる子供」

【知】学力向上と家庭学習の充実

【徳】豊かな心づくり

【体】健康な体づくり

3 教育方針

- ◇ 豊かな体験とふれあいの中で、知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成し、全人的な教育活動を推進する。
- ◇ 子供が、自分らしい生き方を実現していけるように、子供のよさを積極的に見だし、自発的・自主的な学習を促し、子供が自信をもてるようにする。
- ◇ 子供の個性と創造性の伸長に資するように、基礎・基本の指導の徹底を図る。
- ◇ 教師と子供相互の信頼関係を築き、学び合い励まし合い、明るく楽しい学校環境を整える。
- ◇ 教師と保護者の信頼関係を深め、学校と家庭のそれぞれの機能を効果的に発揮させつつ、学校と家庭が一体となって子供の健全な育成を図る。

上記の学校教育目標及び教育方針の達成のために、学校関係者評価及び自己評価を実施し、学校運営に資するものとする。また、学校評議員からの助言を学校運営に生かしていく。

II 学校運営に関する評価計画

- 4 月 学校運営に関する共通理解と取組の推進
- 7 月 中間評価の実施（教員による評価及び保護者アンケート、児童アンケート）
学校評価委員会（集計結果を基に考察し、改善方策の決定）
- 8 月 学校評価を基に取組改善の推進
- 9 月 第1回学校評議員会（中間評価の考察と9月以降の改善策の報告、意見交換）
- 12 月 年度末評価の実施（教員による評価及び保護者アンケート、児童アンケート）
学校評価委員会（集計結果を基に考察し、改善方策の決定）
- 3 月 第2回学校評議員会（中間評価の考察と新年度に向けた改善策の報告、意見交換）
本年度の振り返り及び次年度に向けての共通理解

Ⅲ 重点的な取組

附属小学校に求められている使命や役割、学校の現状を踏まえ、「自ら考え判断し、行動できる子供」を目指して、以下の取組を行う。

1 【知】学力向上と家庭学習の充実

- ・ 確かな教材研究と子供理解に徹する。
- ・ 専科指導体制を整える。
- ・ 授業において、学習専用端末を効果的に活用する。
- ・ 家庭学習のガイドラインを作成し、家庭と連携しながら自学自習できる力を育む。

2 【徳】豊かな心づくり

- ・ 温かな心の育成を目指して、「全校一斉あったかハート推進週間」に取り組む。月に1回、道徳科・学級活動を中心とした授業を実施し、内容を発信する。
- ・ いじめを許さない雰囲気高めるための全校集会「あったかハート集会」を実施する。
- ・ 互いに温かなメッセージの花を咲かせる「あったかハートの木」を掲示する。また、「あったかハートTV」で日々の授業や学校行事であふれる笑顔の写真を紹介したり、授業で学習した曲や習い事で取り組んでいる曲を発表する「ちござくらコンサート」を開催したりする。
- ・ 落ち着いた環境で過ごすために、週1回、「身の回りの整頓タイム」を設ける。
- ・ 1年生から6年生までの縦割り班による「なかま活動」を実施する。
- ・ 年間を通して、1年生と6年生が交流する活動を行う。また、1年生と幼稚園年長児、5年生と幼稚園年長児、4年生と特別支援学校児童生徒が交流する活動を行う。
- ・ 学校生活に関するアンケートや教育相談を定期的実施し、いじめの未然防止に努める。
- ・ 毎週、気になる児童の情報交換を行い、生徒指導事案等の情報を全教職員で共有する。いじめと疑われる行為を発見、または、相談・通報を受けた場合は、速やかに学校安全管理室に報告し、組織的に対応する。
- ・ 全教職員や保護者を対象とした、いじめについての研修会を行い、いじめ問題への理解を深め、対応スキルの向上と組織的対応に努めている。保護者を対象とした講演会や児童による集会、附属学校園教職員、教育学部教職員を対象とした研修会も行っている。今年度実施した研修会や講演会、集会は、以下のとおりである。

◇4月2日（水） いじめ防止対策基本方針の共通理解

対 象：附属小学校教職員

◇4月18日（金） いじめ防止対策基本方針の共通理解

対 象：附属小学校保護者

◇7月23日（水） 事例をもとにしたいじめ対応スキル向上研修（事例研修）

テーマ：いじめに係る児童理解とその対応について学ぶ

いじめの早期発見・早期対応・組織的対応に関する留意点を愛確認する

講 師：布瀬 護 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

伊東 史子 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

浜下 知之 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

対 象：附属小学校教職員

◇8月25日（月） いじめ問題理解研修（伝達講習）

内 容：いじめ問題対策について

資 料：令和7年度都道府県・指定都市等生徒指導担当者連絡会議（文部科学省）

対 象：附属学校園教職員

◇10月18日（土） 子供の理解を深める（いじめ理解研修）

テーマ：「親を学び伝える学習プログラムの実践」（各教室）

対 象：附属小学校保護者、附属小学校教職員

◇12月4日（木） いじめ防止のための集会（全校集会）

集会名：あったかハートをもっと大きくしよう集会

対 象：1～6年生、附属小学校教職員

◇12月19日（金） いじめ防止等に関する研修（伝達講習）

内 容：いじめに関する全国の状況について、いじめに関する直近の国の取組について

いじめを未然に防止するために～「いじめの重大化を防ぐための留意事項集」の事例
を基にした協議～

資 料：令和7年度いじめ防止等に関する普及啓発協議会（文部科学省初等中等教育局児童生徒課）

対 象：附属小学校教職員

◇2月2日（月） いじめ問題対応研修

講 師：豊福 晋平 先生（国際大学 GLOCOM 主任研究員/准教授）

対 象：教育学部教職員、附属学校園教職員

3 【体】健康な体づくり

- ・「なかま活動」で、晴れた日は外遊び、雨の日は8の字跳びに取り組む。
- ・Q-U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）や「とやまゲンキッズ作戦」を実施する。
- ・望ましい生活習慣を身に付けられるよう、養護教諭による保健指導を行う。

IV 学校評価結果（教員・保護者・児童）

令和7年7月1日

保護者 各位

富山大学教育学部附属小学校
校長 原野 克憲

「学校運営に関するアンケート」の実施について（お願い）

夏至の候 保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、本年度も、目指す子供の姿を「自ら考え判断し行動できる子供」とし、重点課題を絞って学校運営を行っています。

つきましては、前期の前半を終えるにあたり、4月からの学校の取組やお子様の様子について、保護者の皆様からご意見をいただき、今後の学校運営の参考にしたいと思っております。なお、アンケートは、Google Classroomに配信したフォームにてご回答ください。ご多用のこととは存じますが、下記のとおりご協力いただきますようお願い申し上げます。

記

1 アンケート回答の手順

- ① Google Classroomに保護者アカウントでログインしてください。
※兄弟姉妹がおられる場合は、複数の保護者アカウントをもっておられます。お手数ですが、お子さんごとに、それぞれの保護者アカウントでログインし、回答をお願いします。
- ② 「全校の保護者の方への連絡」→「7月のおたより」→「学校運営に関するアンケート」にあるフォームにてアンケートにお答えください。最後に「送信」ボタンを押してください。
こちらからでも答えることができます。<https://forms.gle/hdWL9fRRDHmnK2uCA>
- ③ 本アンケートは、保護者アカウントと選択された学級及び名前でご回答済みかどうかを確認しています。学級及び名前を選択間違いがないようお願いいたします。
- ④ 送信後に回答内容を変更されたい場合、締切日までは再度回答することができます。
- ⑤ パソコンやスマートフォンで回答される際、アカウントが勝手に切り替わり、回答できないことがあるようです。その場合は、Chromebookでの回答をおすすめします。
- ⑥ 自由記述には、よりより学校をつくり上げていく上で、建設的なご意見やご要望等がありましたら、ご記入ください。

※書いていただいたご意見やご要望については、職員会議で検討した学校の考えを併せて、学校だよりで公開する予定ですが、以下の内容に関しては削除、部分的に変更します。

- ・個人（児童、保護者、教員、学級）が特定される内容
- ・個人的なことについて書かれたと思われる内容
- ・他校への配慮を要する内容

2 回答の締め切り日

令和6年7月8日（火）



ちござくら

令和7年度 第5号 9月5日

学校運営に関するアンケート

学校運営に関するアンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。様々な観点を踏まえての数値評価やご意見については、今後の学校運営の参考とさせていただきます。保護者の皆様とともに、「自ら考え、判断し、行動できる子供」の育成を目指し、改善可能な点は、改善を重ねながら、児童を中心において、教育活動を進めていきます。

学校運営全体の取組について(保護者アンケートより)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない

項目	質 問 事 項	R7 7月	R6 12月	R6 7月
1	学校は、学校運営の方針を分かりやすく伝えている。	3.59	3.50	3.55
2	学校は、授業や縦割り班活動、学校行事を通して、子供たちが楽しく過ごせる学校づくりに努めている。	3.72	3.60	3.59
3	学校は、保護者の思いや意見を聞く体制をとっている。	3.49	3.44	3.49
4	学校は、分かりやすく楽しい授業を通して基礎・基本の定着を図り、学力を高めるようにしている。	3.63	3.58	3.60
5	学校は、教育機器や図書館等を活用した授業、現地学習等の体験的な学習を行っている。	3.54	3.48	3.54
6	学校は、授業や家庭学習をとおして、自主性、自立性（子供の学ぶ意欲、やり抜く力等）を高めようとしている。	3.57	3.62	3.62
7	学校は、運動能力や体力を向上させようとしている。	3.33	3.32	3.29
8	学校は、道徳教育を大切にし、思いやりのある心を育んでいる。	3.64	3.60	3.59
9	学校は、子供の心身についての相談に応じている。	3.45	3.44	3.42
10	学校は、いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいる。	3.44	3.40	3.37
11	学校は、望ましい生活習慣について指導をしている。	3.51	3.46	3.47
12	学校は、子供の安全を守るための取組を行っている。	3.57	3.50	3.53
13	学校は、校舎内外の学習環境の整備に努めている。	3.42	3.49	3.52

学校運営の取組については、どの項目も高い数値となっており、概ね良好であると考えます。ただ、項目7「運動能力や体力向上」3.33、項目12「学習環境の整備」3.42は、他の項目と比較するとやや低い数値となっています。

運動能力や体力向上については、体育の学習や休み時間等を活用した運動の機会を契機として、運動に親しむ態度を育成したいと思います。学習環境については、安全面を確保し、子供が学習に取り組むためにふさわしい環境を整えたいと思います。また、「いじめや不登校のない学校づくり」、「子供の心身についての相談」は、数値の上昇が見られます。現在の取組の継続や相談しやすい体制づくりに一層、努めたいと思います。

子供の様子について(保護者・児童アンケートより)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない

保護者アンケート					児童アンケート				
項目	質問事項	R7 7月	R6 12月	R6 7月	項目	質問事項	R7 7月	R6 12月	R6 7月
1	子供は、学校へ行くのが楽しいと言っている。	3.63	3.60	3.60	1	学校は楽しい。	3.70	3.61	3.69
2	子供は、授業を楽しみにしている。	3.48	3.42	3.43	2	授業は楽しい。	3.61	3.55	3.60
3	子供は、進んであいさつをしている。	3.27	3.28	3.23	3	進んであいさつをしている。	3.61	3.54	3.63
4	子供は、相手や場に応じた言葉遣いをしている。	3.23	3.28	3.21	4	思いやりのある言葉を使っている。	3.51	3.42	3.48
5	子供は、登下校中（歩くことやバス、電車等で）、安全の決まりやルールを守っている。	3.44	3.41	3.36	5	登下校中（歩くことやバス、電車で）、安全のルールやマナーを守っている。	3.67	3.57	3.73
6	子供は、学校であったことを話したり相談したりする。	3.40	3.37	3.39	6	学校であったことを、家で話したり相談したりしている。	3.54	3.33	3.46
7	子供は、進んで運動しようとしている。	3.40	3.28	3.38	7	進んで運動している。	3.55	3.45	3.56
8	子供は、姿勢に気を付けている。	2.67	2.66	2.68	8	授業や給食のときの姿勢に気を付けている。	3.31	3.18	3.25

子供たちの様子については、保護者アンケートでも児童アンケートでも、昨年度に引き続き、項目8「姿勢」が最も低い数値になっています。

姿勢は、心の状態を表す一面があります。心の状態が安定していると、自然と背筋が伸び、意欲的に学校生活を送ることができます。学校では、これまでと同様に「正しい位置に椅子を置く、背中を伸ばして座る、足を組んだり、肘をついたりしない」などの声かけをしていくとともに、健康観察で児童の状態を確認したり、相談ごとには真摯に対応したりするなど、心の状態に留意しながら指導をしていきたいと思えます。この項目は、学校と家庭の連携が必要な項目ですので、「なぜ、よい姿勢をする必要があるのか」、「よい姿勢でいるためには、どのようなことが必要なのか」について、家庭でも話し合ってもらえると幸いです。

児童アンケートでは、項目1「学校は楽しい」3.70、項目5「登下校中のルールやマナー」3.67、項目2「授業は楽しい」3.61、項目3「あいさつ」3.61、で、高い数値となっています。児童が意識して取り組んでいるよさを認めながら、今後も、子供たちが楽しいと思える学校づくり、安心して通える学校づくりを目指して支援していきます。

(副校長 阿久津 理)

令和7年度7月実施 教員アンケート結果

3.6以上(90%以上)

2.4以上2.8未満(60%以上70%未満)

3.2以上3.6未満(80%以上90%未満)

2.4未満(60%未満)

		平 均		
1. 学校運営全体の取組について		R6.7	R6.12	R7.7
1	保護者への情報発信を適切に行っている。(学校・学級だより、懇談会、電話連絡等)	3.6	3.4	3.6
2	本校の教育課題等について、教職員で話し合い、次の計画に生かしている。	3.2	3.1	3.1
3	各分掌相互の連絡・調整が円滑に行われ、有機的に機能している。	3.1	2.9	2.9
4	保護者の意見を聞きながら、教育活動を進めている。	3.6	3.4	3.4
5	教科等ごとに、基礎・基本の定着を図るため、指導計画と指導方法の工夫に努めている。	3.7	3.6	3.5
6	問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れ、児童の実態に沿って確かな学力の育成に努めている。	3.5	3.6	3.7
7	授業や家庭学習(テキスト学習を含む)を通して、「自学自習する力」の育成に努めている。	3.4	3.3	3.4
8	体育や学校行事、3015の活用等を通して、運動能力や体力の向上に努めている。	—	—	3.0
9	様々な体験を生かすとともに、資料や発問を工夫し、内面的な自覚を深める道徳科の授業の指導に努めている。	3.4	3.3	3.4
10	あったかハート教育や教育相談システムを機能させ、児童の心の問題に対処している。	3.1	3.2	3.4
11	いじめの未然防止や早期発見、迅速な対応を心がけ、組織的にいじめ問題に対応している。	—	—	3.5
12	挨拶等、基本的生活習慣に対する指導ができています。	3.1	3.0	3.1
13	不審者対応、危機管理等に対しての未然の対策を適切に考えている。	3.2	3.1	3.2
14	事故、事件が発生した場合、組織的に連携し、適切に対応している。	3.4	3.3	3.6
15	校舎内外の学習環境の整備に努めている。	2.8	2.7	2.9

2. 重点課題等について

1	子供は、学校へ行くのが楽しいと感じている	3.1	3.3	3.3
2	子供は、授業を楽しみにしている	3.3	3.3	3.4
3	子供は、進んであいさつをしている	3.0	3.1	3.0
4	子供は、相手や場に応じた言葉遣いをしている	2.9	2.9	2.8
5	子供は、登下校中(歩くことやバス、電車等で)、安全の決まりやルールを守っている。	2.6	2.6	2.5
6	子供は、学校であったことを話したり相談したりする。	3.0	3.1	3.1
7	子供は、進んで運動している	2.9	3.0	3.2
8	子供は、授業や給食のときの姿勢に気を付けている。	2.7	2.7	2.6

3. よりよい学校を目指して(自由記述)

①支援員の効果と今後の効果的な連携
 ②研究の改善について(研究の方向性や発信)
 ③研究室での印刷機の利用
 ④学級費について
 ⑤清掃奉仕活動・学級懇談会について
 ⑥特別支援教育について
 ⑦教官室について
 ※よりよい学校づくりに向けて、建設的なご意見、ありがとうございました。相談する必要がある項目については、個別に相談しました。今後も、子供の成長、教員の在り方、保護者の要望と合わせて、改善を図っていききたいと思います。

令和7年12月1日

保護者 各位

富山大学教育学部附属小学校
校長 原野 克憲

「学校運営に関するアンケート」の実施について（お願い）

寒冷の候 保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、7月に行いました「学校運営に関するアンケート」と同様に、8月から11月までの学校の取組やお子様の様子について、保護者の皆様からご意見をいただき、今後の学校運営の参考にしたいと思っております。なお、アンケートは、Google Classroomに配信したフォームにてご回答ください。ご多用のこととは存じますが、下記のとおりご協力いただきますようお願い申し上げます。

記

1 アンケート回答の手順

- ① Google Classroomに保護者アカウントでログインしてください。
※兄弟姉妹がおられる場合は、複数の保護者アカウントをもっておられます。お手数ですが、お子さんごとに、それぞれの保護者アカウントでログインし、回答をお願いします。
- ② 「全校の保護者の方への連絡」→「12月のおたより」→「学校運営に関するアンケート」にあるフォームにてアンケートにお答えください。最後に「送信」ボタンを押してください。
- ③ 本アンケートは、保護者アカウントと選択された学級及び名前でご回答済みかどうかを確認しています。学級及び名前を選択間違いがないようお願いいたします。
- ④ 送信後に回答内容を変更されたい場合、締切日までは再度回答することができます。
- ⑤ パソコンやスマートフォンで回答される際、アカウントが勝手に切り替わり、回答できないことがあるようです。その場合は、Chromebookでの回答をおすすめします。
- ⑥ 自由記述には、よりより学校をつくり上げていく上で、建設的なご意見やご要望等がありましたら、ご記入ください。
※書いていただいたご意見やご要望については、職員会議で検討した学校の考えを併せて、学校だよりで公開する予定ですが、以下の内容に関しては削除、部分的に変更します。
 - ・個人（児童、保護者、教員、学級）が特定される内容
 - ・個人的なことについて書かれたと思われる内容
 - ・他校への配慮を要する内容

2 回答について

締め切り日：令和7年12月8日（月）

回答：次のURLをクリックして、回答することも可能です。

【回答URL】 <https://forms.gle/oKeKVrKMe9LU6Q728>



ちござくら

令和7年度 第9号 1月16日

学校運営に関するアンケート

昨年の7月に続き、学校運営に関するアンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。今後も、「自ら考え、判断し、行動できる子供」の育成を目指し、保護者の皆さんにいただいたご意見をもとに改善できることは改善しながら学校運営に努めていきます。

学校運営全体の取組について(保護者アンケートより)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない

項目	質 問 事 項	R7 12月	R7 7月	R6 12月
1	学校は、学校運営の方針を分かりやすく伝えている。	3.56	3.59	3.50
2	学校は、授業や縦割り班活動、学校行事を通して、子供たちが楽しく過ごせる学校づくりに努めている。	3.74	3.72	3.60
3	学校は、保護者の思いや意見を聞く体制をとっている。	3.49	3.49	3.44
4	学校は、分かりやすく楽しい授業を通して基礎・基本の定着を図り、学力を高めるようにしている。	3.67	3.63	3.58
5	学校は、教育機器や図書館等を活用した授業、現地学習等の体験的な学習を行っている。	3.52	3.54	3.48
6	学校は、授業や家庭学習をとおして、自主性、自立性（子供の学ぶ意欲、やり抜く力等）を高めようとしている。	3.60	3.57	3.62
7	学校は、運動能力や体力を向上させようとしている。	3.34	3.33	3.32
8	学校は、道德教育を大切にし、思いやりのある心を育んでいる。	3.70	3.64	3.60
9	学校は、子供の心身についての相談に応じている。	3.48	3.45	3.44
10	学校は、いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいる。	3.47	3.44	3.40
11	学校は、望ましい生活習慣について指導をしている。	3.52	3.51	3.46
12	学校は、子供の安全を守るための取組を行っている。	3.55	3.57	3.50
13	学校は、校舎内外の学習環境の整備に努めている。	3.44	3.42	3.49

学校運営の取組については、どの項目も高い数値となっており、概ね良好であると考えます。7月実施の評価と比較すると、項目1「学校運営の方針の発信」、項目5「体験的な学習」、項目12「安全を守る取組」のみ、若干の数値の低下が見られます。また、前回に引き続き、項目7「運動能力や体力向上」3.34、項目13「学習環境の整備」3.44は、他の項目と比較するとやや低い数値となっています。

運動面の課題については、教員の声かけや児童の委員会活動の充実等を行い、冬季の安全や運動量の確保等の改善に取り組んでいきたいと思ひます。

子供の様子について(保護者・児童アンケートより)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない

保 護 者 ア ン ケ ー ト					児 童 ア ン ケ ー ト				
項 目	質 問 事 項	R7 12 月	R7 7 月	R6 12 月	項 目	質 問 事 項	R7 12 月	R7 7 月	R6 12 月
1	子供は、学校へ行くのが楽しいと言っている。	3.63	3.63	3.60	1	学校は楽しい。	3.68	3.70	3.61
2	子供は、授業を楽しみにしている。	3.51	3.48	3.42	2	授業は楽しい。	3.58	3.61	3.55
3	子供は、進んであいさつをしている。	3.29	3.27	3.28	3	進んであいさつをしている。	3.47	3.61	3.54
4	子供は、相手や場に応じた言葉遣いをしている。	3.32	3.23	3.28	4	思いやりのある言葉を使っている。	3.44	3.51	3.42
5	子供は、登下校中（歩くことやバス、電車等で）、安全の決まりやルールを守っている。	3.44	3.44	3.41	5	登下校中（歩くことやバス、電車で）、安全のルールやマナーを守っている。	3.64	3.67	3.57
6	子供は、学校であったことを話したり相談したりする。	3.42	3.40	3.37	6	学校であったことを、家で話したり相談したりしている。	3.40	3.54	3.33
7	子供は、進んで運動しようとしている。	3.25	3.40	3.28	7	進んで運動している。	3.48	3.55	3.45
8	子供は、姿勢に気を付けている。	2.66	2.67	2.66	8	授業や給食のときの姿勢に気を付けている。	3.20	3.31	3.18

子供たちの様子については、保護者アンケートと児童アンケートで共通して高い数値になっているのが、項目1「学校は楽しい」（保護者3.63、児童3.68）、項目2「授業は楽しい」（保護者3.51、児童3.58）です。学校生活の中で最も多くの時間を占めているのが授業です。教員が授業に力を入れて実施している効果がでていと感じ、嬉しく思います。授業は、児童の資質・能力を高めるだけでなく、児童相互の関係づくりも配慮しながら進めています。後期後半は、学年のまとめの時期にもあたりますので、児童が学級の友達と学び合い、自信をもって進級できるよう努めたいと思います。

課題として挙げられるのは、項目3「挨拶」、項目7「運動」、項目8「姿勢」です。どの項目も児童に習慣付けたい項目となります。家庭での「おはよう」に始まり、学校でよい姿勢で授業を受けたり、休み時間に身体を動かしたりして、ぐっすりと睡眠をとる。このような望ましいサイクルで日常生活を送ることができるよう、学校と家庭が連携していきたいと思います。学校では、教員からの積極的な挨拶、天候のよい日や体育館利用日での運動の推奨、授業や給食での姿勢についての声掛け等、少しずつ改善されるよう努めます。ご協力をよろしくお願いします。

(副校長 阿久津 理)

令和7年度12月実施 教員アンケート結果

3.6以上(90%以上)

2.4以上2.8未満(60%以上70%未満)

3.2以上3.6未満(80%以上90%未満)

2.4未満(60%未満)

		平 均		
1. 学校運営全体の取組について		R6. 12	R7. 7	R7. 12
1	保護者への情報発信を適切に行っている。(学校・学級だより、懇談会、電話連絡等)	3.4	3.6	3.7
2	本校の教育課題等について、教職員で話し合い、次の計画に生かしている。	3.1	3.1	2.9
3	各分掌相互の連絡・調整が円滑に行われ、有機的に機能している。	2.9	2.9	3.1
4	保護者の意見を聞きながら、教育活動を進めている。	3.4	3.4	3.5
5	教科等ごとに、基礎・基本の定着を図るため、指導計画と指導方法の工夫に努めている。	3.6	3.5	3.4
6	問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れ、児童の実態に沿って確かな学力の育成に努めている。	3.6	3.7	3.4
7	授業や家庭学習(テキスト学習を含む)を通して、「自学自習する力」の育成に努めている。	3.3	3.4	3.4
8	体育や学校行事、3015の活用等を通して、運動能力や体力の向上に努めている。	—	3.0	2.8
9	様々な体験を生かすとともに、資料や発問を工夫し、内面的な自覚を深める道徳科の授業の指導に努めている。	3.3	3.4	3.2
10	あったかハート教育や教育相談システムを機能させ、児童の心の問題に対処している。	3.2	3.4	3.4
11	いじめの未然防止や早期発見、迅速な対応を心がけ、組織的にいじめ問題に対応している。	—	3.5	3.5
12	挨拶等、基本的生活習慣に対する指導ができています。	3.0	3.1	2.9
13	不審者対応、危機管理等に対しての未然の対策を適切に考えている。	3.1	3.2	3.4
14	事故、事件が発生した場合、組織的に連携し、適切に対応している。	3.3	3.6	3.6
15	校舎内外の学習環境の整備に努めている。	2.7	2.9	3.4

2. 重点課題等について

1	子供は、学校へ行くのが楽しいと感じている	3.3	3.3	3.2
2	子供は、授業を楽しみにしている	3.3	3.4	3.2
3	子供は、進んであいさつをしている	3.1	3.0	2.5
4	子供は、相手や場に応じた言葉遣いをしている	2.9	2.8	2.8
5	子供は、登下校中(歩くことやバス、電車等で)、安全の決まりやルールを守っている。	2.6	2.5	2.1
6	子供は、学校であったことを話したり相談したりする。	3.1	3.1	3.1
7	子供は、進んで運動している	3.0	3.2	3.0
8	子供は、授業や給食のときの姿勢に気を付けている。	2.7	2.6	2.2

3. よりよい学校を目指して(自由記述)

①研究の進め方について→全員で共通理解をして進める
 ②特別支援員・業務支援員について→依頼したい業務は教官室へ
 ③個別懇談会について→精選が必要
 ④学級費について→校内教頭との調整を
 ⑤校務分掌について→公平な分掌の配分を
 ⑥教官室の対応について→連絡を密に
 ※よりよい学校づくりに向けて、建設的なご意見、ありがとうございました。相談する必要がある項目については、個別に相談しました。学校運営をしていく上で困ったことや新たな取り組み等、気付いたことがあれば随時お知らせください。

「あったかハート附属っ子」の取組

1 全校一斉あったかハート推進週間の取組

温かな心を育成するための取組の一つとして、月に1回、道徳科・学級活動の授業を実施し、内容を発信する。

週 間	内 容	
4/21～4/25	学級活動①	「みんなあったかハートの学級」になるための話合い
5/12～5/17	学級活動②	安全なインターネットの使い方（情報モラル教育）
6/2～ 6/6	道徳科①	内容項目：親切, 思いやり
7/1～7/7	学級活動③	人権尊重をテーマにした学級集会
9/1～9/5	道徳科②	内容項目：友情, 信頼（低学年）、相互理解, 寛容（中・高学年）
10/6～10/10	学級活動④	ネット上のいじめの具体例から学ぶ（情報モラル教育）
11/20～11/28	学級活動⑤	「みんなあったかハートの学級」になるための話合い
12/1～12/5	道徳科③	内容項目：公正, 公平, 社会正義
1/13～1/16	児童会活動①	低学年・中学年・高学年フロア集会
2/2～2/6	道徳科④	内容項目：生命の尊さ
3/2～3/6	学級活動⑥	1年間のあったかハートの振り返り

2 温かな心を育む環境づくり

- ・下級生と上級生が、互いに温かなメッセージの花を咲かせる「あったかハートの木」の掲示
- ・日々の授業や学校行事であふれる笑顔の写真紹介「あったかハートTV」の実施
- ・落ち着いて過ごすために取り組む「身の回りの整頓タイム」の実施
- ・音楽科で学習した曲や習い事で取り組んでいる曲を発表する「ちござくらコンサート」の開催

※環境づくりは子供の創意が生かされるよう、委員会活動等との連携を図る。

3 自己存在感、自己有用感を高める教育活動

- ・他者との関わりを通して、一人一人の考え方のよさや違いを理解したり、一緒に納得できる考えを見いだしたりすることのできる授業
- ・学級、学校、学園の仲間と一つのことを成し遂げるよさを味わう異学年及び異校種交流
 - *縦割り班で行う「縦割り班清掃」や「なかま活動」
 - *1年生と6年生の交流活動
 - *1年生と2年生、3年生と4年生、5年生と6年生で行う「フロア集会」
 - *1年生と幼稚園年長児との交流活動
 - *5年生と幼稚園年長児との交流活動
 - *4年生と特別支援学校児童生徒との交流活動
 - *6年生と中学生との交流活動
- ・人権を意識した児童会活動

4 子供の心に寄り添う対応

- ・定期的なアンケートと教育相談の実施
- ・一人一人の思いを受け止め、温かな心を育てる相談体制の充実

あったかハート推進週間の取組(4月)



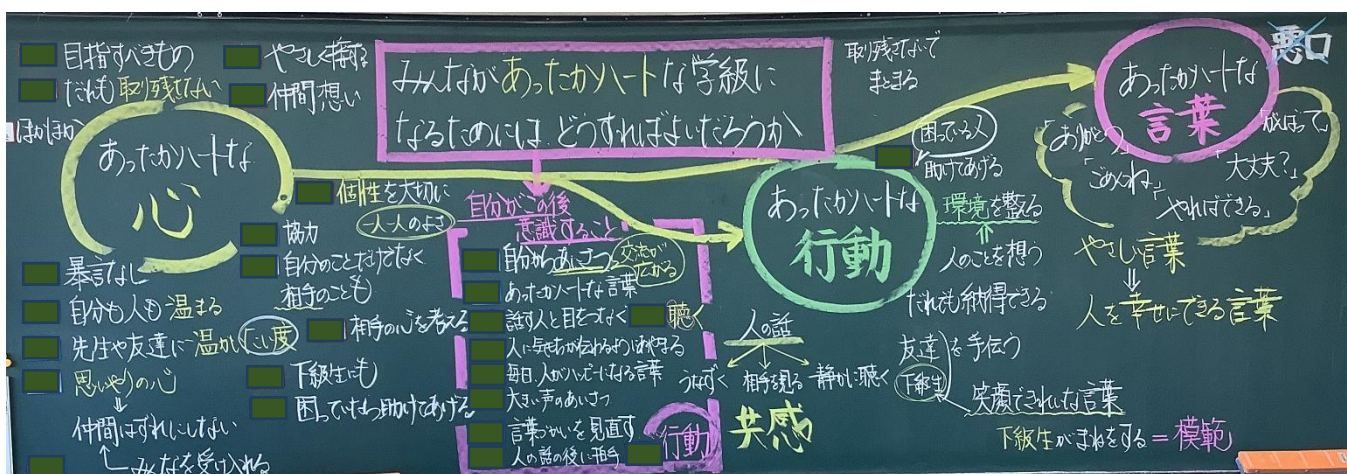
今年度も、附属小学校では、あったかハート推進週間を設定し、子供たちに温かな心を一層育むことを目指して取り組んでいます。

4月は、以下の内容で学級活動を行いました。

月	週 間	内 容
4 月	4/21 (月) ~25 (金)	学級活動①「みんながあったかハート」の学級になるための話し合い

1. 実際の授業

【5年生】



5年生では、「あったかハートな学級になるためには、どうすればよいだろうか」というテーマで、学級代表が話し合いを進めました。心が思わずほかほかと温まるような、そんな心があったかハートであり、あったかハートな学級になるために、「あったかハートな言葉」と「あったかハートな行動」を意識していくことが大切であることを確かめました。

【2年生】

2年生では、「あったかハートって？」をテーマに学級で話し合いました。子供たちは、あったかハートを、「あたたかい関わり」ではないかと考えていました。しかし、「それだけではなさそう・・・」と、子供たちは考え続けました。担任の先生も一緒になって考える中で、「厳しく言うこともあったかハートになるのではないかな」という意見が出ました。子供たちは、厳しさがあったかハートになるための条件を考えました。子供たちが出した条件は「その人のことを思って言う」でした。相手を思いやることは、優しさだけではなく、時には厳しさも必要で、そのように関わり合っていくことで、互いに成長し合っていくことができると、2年生の子供たちは考えました。

2. 各学年で行った授業の感想

- ・あったかハートになるために、友達に優しくしたいです。(1年生)
- ・あったかハートを大きくするために、思いやりの行動をしたいです。優しくするだけでなく、時には、その人のことを思って注意することも大切だと思いました。(2年生)
- ・もっとあったかハートな学級になるために、ベストマナーを守って、みんなの手本になれるようにがんばりたいです。また、友達のことをしっかり見て、友達のがんばりや優しさを見つけて、あったかハートを広げていきたいです。(3年生)
- ・人が嫌な気持ちになることや、自分がされて嫌だと思ふことはしないようにしたいです。もし、嫌なことをされたり、したりしても、優しい言葉で注意したり、相手の注意を受け入れたりすることを大切にしていきたいです。(4年生)
- ・あったかハートな学級になるために、常に人のことを思いやって、相手の気持ちを考えたいです。また、日ごろから感謝の気持ちを伝えられる人になりたいです。(5年生)
- ・もっとあったかハートにするために、クラスのよさや課題が分かりました。今回分かったことを生かして、小学校生活最後の一年を過ごしていけたらよいと思いました。(6年生)

今後も、子供たちに温かな心が育っていく様子をお伝えしていきます。



月	期 間	内 容
5月	5/12（火）～16（金）	安全なインターネットの使い方（情報モラル教育）

① これまで使っていて
ほとんど
② これから起きる
トラブル

クロムブックを自分たちのために安全に正しく使うには、どうすればいいだろうか？

会社活動
スライドの編集
のせはのの消る
アップする以外
アップする内
大変なことになる
これは本当に大丈夫？
人に迷惑をかける

ネットから
勝手にコピー
はもの
写真を大量コピー
かんたんに画像
個人をPCを盗る
人への写真やめる
→見通すもしやてこれら
人を傷め恥をかく。

文字文
傷める
言葉
おれい画像
X-ールの文字どくと
かんちがい

下品な言葉
作業中のPCを盗る
デジタル
外注
おちなく権

注意するは
言葉で注意

- ・係活動のスライドなどを使うときには、「この写真はアップする内容と関係あるのかな」や、「この文章はアップしてよいのかな」などの心配をして、よくないと思ったらやめることが大切だと思います。
- ・友達のクロムブックや、スライドを勝手に触らないようにしたいと思います。
- ・やってはいけないことや、これをしたらどうなるかということを見通して、適切にクロムブックを使うようにしたいです。

どの学年でも、インターネットの使い方を振り返り、安全に、よりよく使うための方法について考えていました。今後も、子供たちに温かな心が育っていく様子をお伝えしていきます。

指導部だより(あったかハート推進週間の取組)



【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。6月は、以下の内容で行いました。

月	期 間	内 容
6月	6/2(月)～6/6(金)	道徳科の授業 内容項目：親切、思いやり

【実際の授業】

1年生では「ないちゃった」という教材文で、「親切」について考えました。子供たちは、「年下の子とボールの取り合いになった主人公のきみえさんは、どうしたらよかったのか」について、年下の子の気持ちに寄り添って考えることで、いろいろな親切な行いがあることに気付きました。



授業の振り返りの場面では、「きみえさんが、ボールをゆずってあげた方が、よかったのではないかな」、「ボール遊びをするときは、一人より二人の方が楽しく遊ぶことができ、お互い気持ちがよいと思います」、「『いっしょにボールを使おう』と言ったらよかったと思います」といった感想がありました。「親切とはどういうものか、親切にするとどんなよいことがあるのか」について考えを深めていました。

【各学年で行った授業後の子供の感想】

- 2年生：「公園のおにごっこ」を読んで、思いやりのある行動をするために、相手の本当の気持ちを考えることが大事だと思いました。理由は、相手の本当の気持ちを考えて行動しないと、相手が悲しい気持ちになるかもしれないからです。
- 3年生：「ぼかぼか言葉」を読んで、言われて悲しくなる言葉を言ってしまったことを思い出しました。これからは、もっと相手のことを考えて行動しようと思いました。
- 4年生：「温かい言葉」を読みました。私が親切にするとときに気を付けることは、やさしい言葉をかけることと、やさしい態度で接することです。大変な思いをしている人には声をかけようと思いました。
- 5年生：「くずれ落ちた段ボール」を読みました。親切は、決して「ありがとう」と言われるためにするものではないと思いました。親切なことをして、他の人からはふつうのことだと思われたとしても、自分でよいことだと思えることができればよいと思いました。
- 6年生：「最後のおくり物」を読みました。思いやりは、相手が得をするものだと思っていたけれど、この授業を通して、自分も得をすることを知りました。もっと、思いやりのある行動を心がけていきたいと思いました。

今回の授業を通して、「親切な行動、思いやりのある行動」について、具体的に考えることができました。高学年では、親切の意義についても考えており、これからの生活に見通しをもつ子供の様子もみられました。今後も、子供たちに温かな心が育っていく様子をお伝えしていきます。



あったかハート推進週間 7月の取組計画

【温かな心の育成】

1 全校一斉あったか教育の推進週間

温かな心の育成に向けた授業（学級活動）

月	週 間	内 容
7 月	7/7（月）～11（金）	人権尊重をテーマにした学級集会

2 取り扱う内容

上記の内容について学級集会を行う。あったかハートな学級になるためにどのような集会をすればよいか話し合い、プログラムを計画し、集会を行う。

学習指導要領第6章の第1「目標」で、次のとおり示されている。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。（1）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。（2）集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。（3）自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

学習指導要領第6章の第2の〔学級活動〕の2「内容」で、次のように示している。

1（上記）の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるようにする。

（1）学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。

イ 学級内の組織づくりや役割の自覚

学級生活の充実や向上のため、児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

児童会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合って決めること。

3 温かな心の育成に向けて留意すること

① 授業では、各学級の実態に応じた集会を行う。

② 子供が集会を進行する形式をとることが望ましいが、

発達の段階等に応じて担任が集会の進行に携わり、子供の自治活動が進むようにする。



あったかハート推進週間 9月の取組計画

【温かな心の育成】

1 全校一斉あったか教育の推進週間

温かな心の育成に向けた授業（道徳科・学級活動）

月	週 間	内 容
9月	9/1（月）～5（金）	道徳科の授業 内容項目：友情、信頼（低学年）、相互理解、寛容（中・高学年）

2 取り扱う内容項目について

【1・2年生】

10 友情, 信頼

〔第1学年及び第2学年〕

友達と仲よくし、助け合うこと。

友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。

【3～6年生】

11 相互理解, 寛容

〔第3学年及び第4学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。

3 年間指導計画で位置付けた授業の予定

1年生	ともだちだから「二つの小鳥」
2年生	たすけ合う友だち「きれいな羽」
3年生	分かり合う心「みんなの学級会」
4年生	ゆるす心の広さ「へらぶなつり」
5年生	相手の立場を考えて「すれちがい」
6年生	分かり合う喜び「ブランコ乗りとピエロ」

4 温かな心の育成に向けて留意すること

- ① 内容項目に沿って、話し合いを中心とした道徳科の授業を展開する。
- ② 授業の終末で、内容項目に沿って振り返ることができるよう、ワークシートに記入する場を設定する。

あったかハート推進週間の取組(10月)



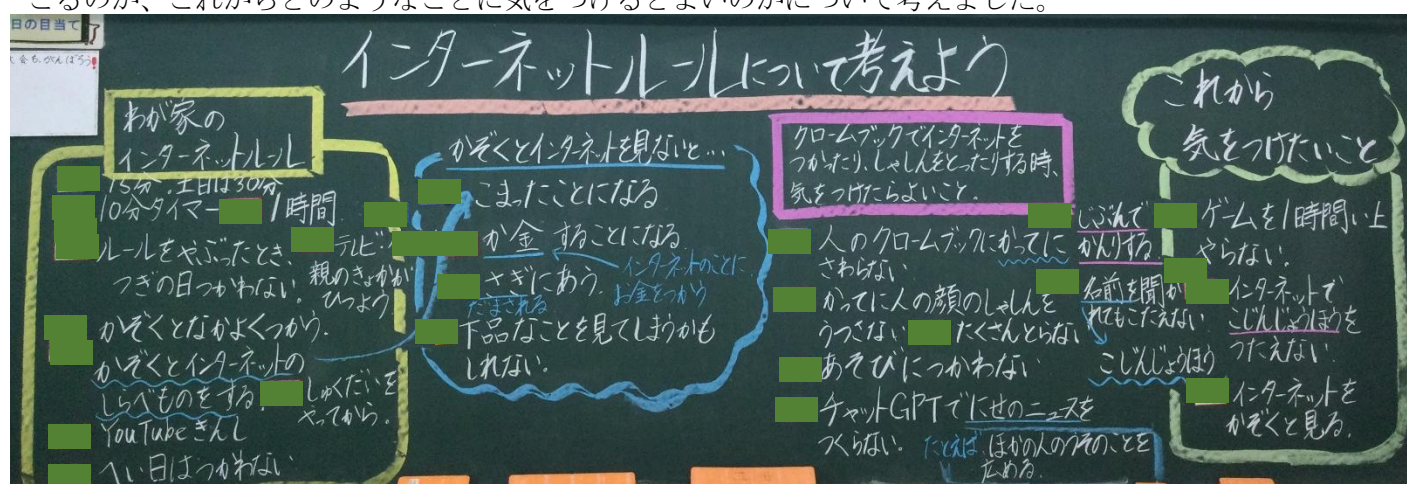
【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。10月の「あったかハート推進週間」を以下の内容で行いました。

月	期 間	内 容
10月	10/6(月)～ 10/10(金)	学級活動④ ネット上の適切なコミュニケーション、情報のリスクについて具体例から学ぶ(情報モラル教育)

【2年生の授業】

2年生では、「わが家のインターネットルール」を確認し、ルールを守らないとどのような困ったことが起こるのか、これからどのようなことに気をつけるとよいのかについて考えました。



2年生の子供たちは、以下のような感想をもちました

- ・子供だけでインターネットを使わないようにしたいです。理由は個人情報教えるようなことになる危険なからです。
- ・知らないアプリをおもしろそうだからといって開かないようにしたいです。インターネットで知った情報の中には、嘘のものもあるかも知れないから、簡単に広めないようにしたいです。
- ・インターネットは怖いと感じました。理由は、個人情報を教えてしまうと、お金を取られたり、家が分かったりするかもしれないからです。
- ・写真を撮るときは、友達顔を勝手に写さないようにしたいです。「いいよ」と言われたときだけ撮るようにしたいです。また、自分や友達の名前を知らない人に言わないようにしたいです。

【各学年で行った授業と感想】

- 1年生：テーマ「クローミングをまなびにつかうって、どういうこと？」
感想：勝手に写真を撮らないようにしたいと思います。相手にも、勝手に撮っていたら、「撮らないで」と言います。
- 3年生：テーマ「ネットゲームで熱くなりすぎると」
感想：ゲームに熱くなると、いつもの自分と違って悪いことも言うことがあるから気を付けたいです。
- 4年生：テーマ「インターネットを利用するときには、どのようなことに気を付ければよいだろうか」
感想：スライドを共有すると、他の人が見ることがあるので、人を見ていて、よい気持ちにならないことは書かないように気を付けようと思いました。
- 5年生：テーマ「SNSの使い方について考えよう」
感想：嫌なことがあっても、SNSに悪いコメントは絶対に送ってはいけないことが分かりました。
- 6年生：テーマ「SNSによるトラブル」
感想：SNSは、新しい発見ができて便利だけれど、相手が悲しい思いをするような使い方を絶対にしないようにしようと思いました。

あったかハート推進週間の取組(11月)



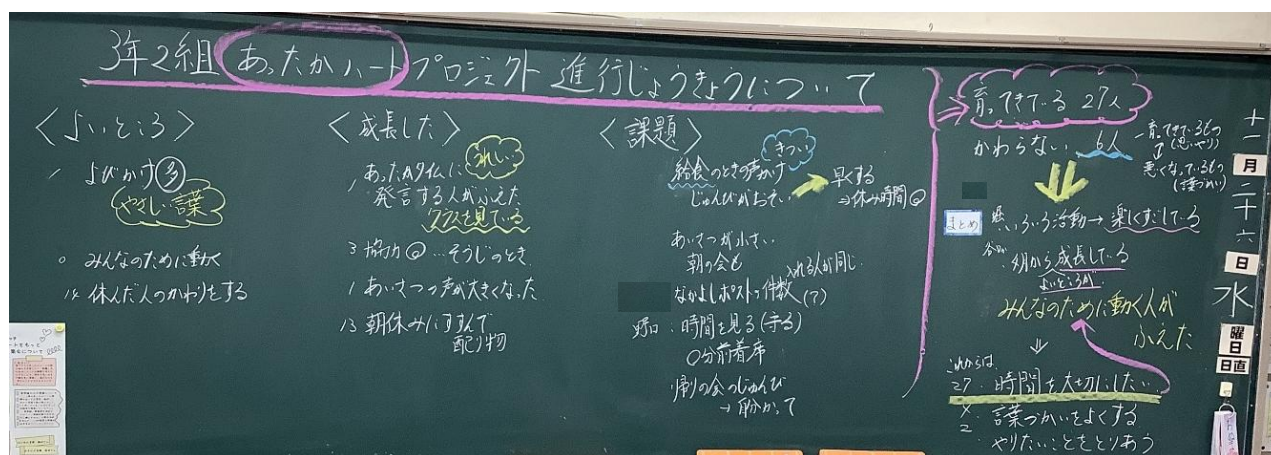
【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。11月の「あったかハート推進週間」を以下の内容で行いました。

月	期 間	内 容
11月	11/20(木)～28(金)	学級活動⑤「みんなあったかハートの学級」になるための話し合い

1 実際の授業

〈3年生〉



3年2組では、学級の様子を振り返り、「あったかハート」は大きくなっているかを話し合いました。4月から成長しているところや課題を確認することで「これからどうすれば、もっとあったかハートが大きくなるか」を考えました。最も多かったのは、「時間を大切にしたい」という意見でした。「時間を大切にする」には、「時間を守って行動する」という意味もありますが、「与えられた時間を何のために、誰のために使うか」という意味もあります。「みんなのために行動する人が増えた」ことで、さらにあったかハートは大きくなっていくと思います。

＜感想＞

- これまでの取組で、あったかハートを大切にすることができました。あったかハートは、他の人を気にかけて、応援したり、他の人のために動くことだと思いました。
- みんなのために、自分から進んで活動できるようになったと思います。あったかハートは、みんなのために動くことだと思いました。

2 各学年で行った授業の感想

- これから、もっとあったかハートな学級になるために、学校のルールを大切にしたいです。友達が悲しむことはしないように、みんなで気をつけたいです。(1年生)
- みんながよかったかハートな学級になるために、もっと友達に優しくしたいです。優しくすると、学校がもっと楽しくなると思います。キラキラタイム(学級の素敵な友達の紹介の時間)では、たくさん発表して、友達をあったかハートにしたいです。(2年生)
- 友達と話す時に、どうしたらあったかハートな気持ちになるか、考えながら話すことを心がけました。相手の立場に立ってみると、その言葉を言われて嬉しいか、悲しいかが分かりました。相手の立場に立って考えてみることは大切だと思いました。(4年生)
- 4月から比べて成長したことが増えてきたけれど、まだ言葉づかいがよくないことがあると思いました。学級でもあったかハートの木を作ったり、特技を披露する集会をしたりして、お互いのよさを認め合える仲間になっていきたいです。(5年生)
- キラキラ集会(特技を披露し合い、互いを認め合う学級集会)を通して、普段は知らない友達の特技を知ることができて、とても楽しかったです。友達のがんばっているところを見ると、一人ひとりの努力が分かったし、学級の理解度も上がりました。これから、もっとお互いを尊重し、個性を伸ばすことができる学級を目指したいです。(6年生)

3 あったかハートをもっと大きくしよう集会

12月4日（木）に、全校で「あったかハートをもっと大きくしよう集会」を行いました。初めに、各学級から、あったかハートの取組について発表をしました。「あったかハートな行動」としては、「笑顔で過ごしている」、「友達に優しい声かけをしている」、「自分から進んで、友達のために行動している」、「友達のよさを認め合っている」などがありました。「これからもっとあったかハートを大きくするための行動」としては、「学級や登下校で、ルールやマナーを守る」、「相手の話を真剣に聞く」、「さわやかなあいさつをする」などがありました。

集会を企画した生活委員会からは、附属っ子のあったかハートが大きくなるために、もっとあいさつが広がればよいと考え、提案しました。よいあいさつのポイントとして、「相手の目を見て、相手に伝わる声の大きさで、明るく、あったかハートで」と紹介し、実際にやってみました。子供たちからは、「あいさつをして、気持ちがよかった」、「これまであいさつをがんばってきたけれど、何か足りないと思っていた。今日、あいさつをしてみて、足りないものが満たされたような気がした」などの感想がありました。

<あったかハートをもっと大きくしよう集会の感想>

- ・他の学級の取組を知ることができてよかったと思います。また、あいさつをしてみて気持ちがよかったし、あいさつをされたら、嬉しく思いました。
- ・各学級の発表を聞いて、参考にしようと思ったし、学級ごとではなく、全校があったかハートになるといいなと思いました。生活委員会の提案では、あいさつの大切さが分かりました。自分が元気に言うと、相手も元気になり、よりよい関係になると思いました。自分から明るいあいさつができるようになりたいです。

あったかハート推進週間の取組(12月)



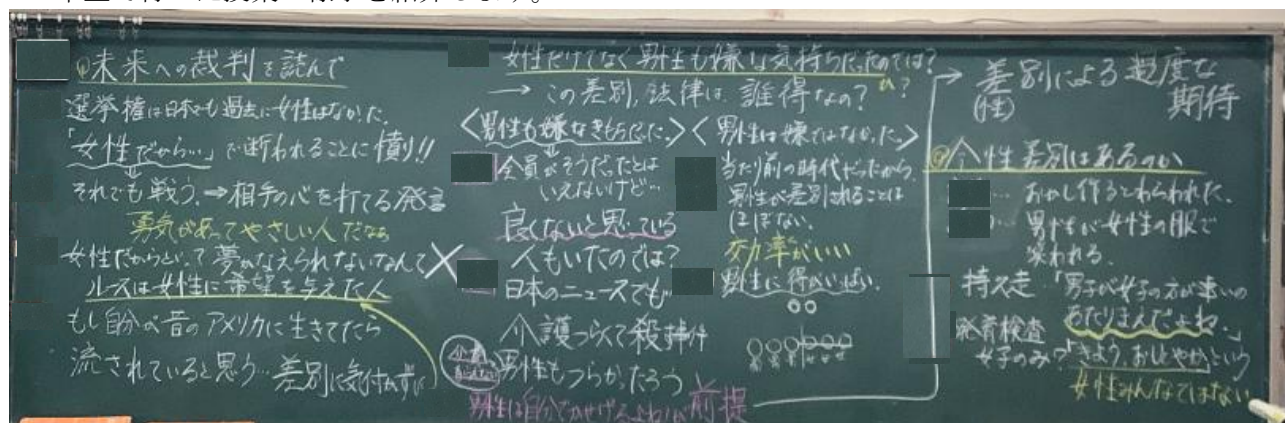
【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。12月の「あったかハート推進週間」を以下の内容で行いました。

月	期 間	内 容
12月	12/2(火)～10(水)	道徳科の授業 内容項目：公正、公平、社会正義

【実際の授業】

6年生で行った授業の様子を紹介します。



6年生は「未来への裁判」を読んで学習しました。「未来への裁判」は、女性に対する様々な差別を受けながら弁護士となったルースが、裁判を通してあらゆる差別と戦い、多くの人を勇気づけ、アメリカの裁判の歴史を変えたというお話です。

授業を通して、子供たちは「差別とは何か」、「差別と区別はどう違うのか」ということについて考えました。

- ・「未来への裁判」を読んで、アメリカが差別について少しずつ変わっていったことが分かりました。日本のことを考えると、まだいろいろな差別があると思ったので、なくしていきたいと思いました。
- ・昔のアメリカのように、今の日本でも「当たり前」と思っていることでも間違っていることがあるかもしれません。今の自分たちを見直すよい機会になりました。
- ・差別と区別は、人の感じ方によって違うのかもしれないと思いました。一人一人が意識して、相手のことを考えることが大切だと思いました。

【各学年で行った授業後の子供の感想】

- ・仲のよい友達とは違うチームになっても、楽しく遊ぶことができれば、新しい友達も増えるかもしれないから、いろいろな人と遊べるのがよいと思いました。
(1年生：みんなとたのしく「じゃんけんぽん」)
- ・みんなが楽しく過ごすために、友達に優しくしたいです。優しくしたら、優しくしてくれた友達は安心すると思うからです。
(2年生：だれとでもいっしょに「およげない りすさん」)
- ・しょうがいがあるからと言って「座ってください」と席を譲るように、すぐに決めつけず、「座りますか？」と相手の気持ちを聞きたいです。また、しょうがいのことをもっと知りたいです。
(3年生：だれもが住みやすいくらし「パラリンピックにねがいをこめて」)
- ・自分では思っていないくても、相手は嫌な思いをしていることもあるかもしれないので、私はこれから「相手の立場に立つ」ということを大切にしていきたいです。
(4年生：むらの仲間として「山びこ村の二人」)
- ・困っている人に寄り添って、自分事のように考えて、自分がされて嬉しいことをしたいと思いました。少しでも相手の心の中の光になれるような人になりたいと思いました。
(5年生：不正に立ち向かう強さ「いじめをなくすために」)

あったかハート推進週間の取組（1月）



【温かな心の育成】

附属小学校では、子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。1月は、以下の内容で行いました。

月	週 間	内 容
1 月	1/13（火）～23（金）	低学年・中学年・高学年フロア集会

【実際の授業】

〈中学年の様子〉

4年1組が担当となり、「中学年あったかハート集会」が行われました。「進化じゃんけん」や「かもつ列車」、「私は誰でしょうクイズ」を通して、同じフロアですが、普段関わっていない友達と、たくさん交流することができました。

このフロアで、このメンバーで生活するのも、もう少しです。これからも、一人でも多くの友達と、温かい関わりが増えるよう、仲よく過ごしてほしいと思います。



〈3年生の感想〉

- ・「進化じゃんけん」では、自己紹介をしてからじゃんけんをしたので、友達のよいところをたくさん知ることができてよかったです。
- ・「私は誰でしょうクイズ」では、となりの人と話し合って答えを考えたので、同じクラスの人とも、あったかハートが大きくなりました。

〈4年生の感想〉

- ・「かもつ列車」では、違う学年の人とも進んでじゃんけんをしたり、友達がじゃんけんに負けなように応援したりしている人がいたので、あったかハートが大きくなったと思います。
- ・3年生と同じフロアで過ごすのも、あと少しなので、まだ話をしていない人とも話せるように、積極的に声をかけるなど、もっとあったかハートが大きくなるよう行動したいです。

〈低学年の様子〉

1年1組が担当となり、「低学年あったかハート集会」が行われました。なかま班で集まって「あったかハートの花」を描きました。お互いに思いつくままに色鉛筆を動かしてできる模様に、「それもいいね」と認め合い、あったかハートを感じました。

〈1年生の感想〉

- ・前から仲よしだったけれど、もっと仲よくなることができました。

〈2年生の感想〉

- ・自分が作りたい花を伝えたら、「いいね」と返してもらって嬉しかったです。これからは、自分でも「いいね」と言ってあげたいです。

〈高学年の様子〉

5年生が担当となり、「高学年あったかハート集会」を行いました。最高学年に向けて準備をする5年生と、中学校進学に向けて準備をする6年生が、学習や生活のことをクイズで振り返ったり、お互いにがんばろうという気持ちをなかま班同士で伝え合ったりと、あたたかい交流の時間になりました。

〈5年生の感想〉

- ・手紙渡しの時に、「これからも勉強をがんばってね」と直接伝えることができて嬉しかったです。

〈6年生の感想〉

- ・あったかハート集会を開いてくれて、勉強クイズはとてもためになったし、日ごろの勉強のリフレッシュにもなりました。

V 第1回学校評議員会より

令和7年度 第1回 学校評議員会

1 日 時 令和7年9月3日（水） 9時00分～10時30分
(学校参観 9時05分～9時25分)

2 会 場 富山大学教育学部附属小学校 会議室

3 内 容

- (1) 学校長あいさつ
- (2) 評議員・学校職員の紹介

【評議員】※敬称略

木下 貴子	富山県教育委員会 小中学校課 課長
田辺 嶽之	富山港北洋材荷受協同組合 理事長
坂本美奈子	道文心理研究所 所長
山崎 均	山崎機工（株）代表取締役社長 元 PTA 会長
牧田 和樹	（株）MGG 代表取締役社長 元 PTA 会長
荒治 和幸	元富山県小学校長

【学校職員】

原野 克憲	校長
阿久津 理	副校長
眞田 裕人	主幹教諭・校内教頭

- (3) 教職員・児童について

① 人事異動

【転出】

村井 悠子	副校長	富山市立大沢野小学校へ（教頭）
土合 真祐	教 諭	富山市立熊野小学校へ（体育科）
高崎 晴香	教 諭	滑川市立東部小学校へ（音楽科）
川崎 祥樹	講 師	富山市立堀川南小学校へ（新規採用）
平井久美子	講 師	退職
津田 知也	講 師	砺波市立出町小学校へ（新規採用）

【転入】

阿久津 理	副校長	富山県総合教育センターより（主任研究主事）
高田 真光	教 諭	富山市立萩浦小学校より（社会科）
橋場 尚美	教 諭	高岡市立高岡西部小学校より（臨時的任用講師）
草島 あかり	教 諭	

城岡 恭子 講 師 元 富山県小学校長

堀江 二葉 講 師 富山大学大学院教職実践開発研究科 2 年

② 教職員について

校長 1、副校長 1、主幹教諭（校内教頭） 1、教諭13、養護教諭 1、臨時的任用講師 2、非常勤講師 5、図書館司書 1、PTA事務職員 1、栄養教諭（特別支援学校兼務） 1、特別支援教育支援員 1、業務支援員 1、スクールカウンセラー（学園兼務） 1、ICT支援員（学園兼務） 1、ALT（中学校兼務） 1

- ・教諭 13 名、養護教諭 1 名、臨時的任用講師 2 名のうち、7 名が富山市以外（黒部市、上市町、立山町、高岡市、砺波市、小矢部市）から通勤している。
- ・ほとんどが 30 代と 40 代である。
- ・7 年ルールが適用されており、本校独自の校務・研究の継承に課題が見られる。
- ・県小教研の専門委員 7 名や学力調査委員 4 名、教育会の作問委員 4 名や副読本作成委員 2 名、NIE 教育委員 1 名等を担うなど、県内の教育を牽引していく立場にある。

③ 児童について

児童数 414 名 ※ 9 月 1 日現在 学級の定員 35 名、学校の定員 420 名

- ・長期欠席児童は、5 年生 1 名である。月に 2・3 日のペースで、フリースクールに通っている。（出席扱い）
- ・相談室登校児童は、なし。

(4) 今年度の学校運営について

① 温かい学校づくり（自ら考え、判断し、行動できる子供の育成）

- ・「あったかハート附属っ子」として、全校一斉あったかハート推進週間、温かな心を育む環境づくり、自己存在感・自己有用感を高める教育活動、子供の心に寄り添う対応に取り組んでいる。取組内容を保護者に配信するとともにホームページで公開している。（別紙参照）
- ・生徒指導主事（専任）を窓口とする学校安全管理室（校長・副校長・校内教頭・養護教諭）を設置し、様々な生徒指導及び教育相談案件に関する情報整理と記録、いじめ緊急性の判断を行っている。いじめの早期発見及び組織的対応に努めている。
- ・毎週、全教員による気になる児童の情報交換を行い、生徒指導及び教育相談案件に関する情報の共通理解を図っている。また、いじめが疑われる案件については、いじめ対策実行会議（校長・副校長・校内教頭・生徒指導主事・養護教諭・当該学年主任・当該学級担任・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー）にかけ、いじめであるか否かの判断を組織的に行っている。
- ・年 5 回、学部長を責任者とし、専門家（医師・臨床心理士・学校心理士・富山県総合教育センター教育相談部研究主事）と校内教員（校長・副校長・校内教頭・生徒指導主事・養護教諭・特別支援教育コーディネーター）で構成された、いじめ防止・対策委員会を開催し、いじめ防止対策基本方針や取組のチェック、いじめ解消の組織的判断等を行っている。

- ・全教職員を対象とした、いじめについての研修会を行い、いじめ問題への理解を深め、対応スキルの向上に努めている。保護者を対象とした講演会や児童による集会も行っている。今年度は、7月に富山県総合教育センターから講師を招き、校内教員対象に研修を行い、8月には、令和7年度第1回「都道府県・指定都市等生徒指導担当者連絡会議」（文部科学省）における内容の伝達を、附属学園教員対象に行った。今後、保護者による研修（10月）や教育学部教員・附属学園教員対象（2月）の研修を予定している。
- ・教科以外の学習でも、ゲストティーチャーを招いた学習を行い、自ら考え、判断し、行動できる子供の育成に努めている。1年生交通安全教室（5/1）、1・2年生対象くもくん教室（5/14）、附属っ子マナーアップ集会（7/1）、3～6年生対象 SNS 危険防止研修会（7/9）などを実施した。

② 研究

- ・研究主題「他者とともに編む～他者とともに編む子供の様相を探る～」を掲げ、他者と関わり、自己を成長させていくことを目指して、3年間の計画（今年度は1年目）で研究を進めている。
- ・子供の見取りを大切にしながら、学習意欲が高まる授業、力の付く授業を目指している。
- ・大学との共同研究を推進し、教科教育等に対する専門的な助言をもらったり、大学の調査研究に協力したりしている。
- ・研究発表会や公開授業研修会を通して、研究の成果を県内外に発信する。研究発表会は、11月22日（土）に開催する。本校では初めての土曜日開催となる。

③ 働き方改革

- ・大学との労使協定により、手当が付く超過勤務の上限は月45時間、年間360時間以内と定められている。就業管理システム上、上限を超えた超過勤務申請をしている教員はいないが、超過勤務申請をせずに時間外に自主研修を行っている様子も見られる。
- ・学校行事等の関係で、繁忙期があるが、年間を通して8時15分出勤、17時退勤としている。現在実施中の教育実習中も17時までの勤務となったため、限られた時間の中で実習生の指導を行い、実習生は17時に帰宅させている。
- ・気になる児童の情報交換のオンライン化、高学年テキスト学習の削減、小教研及び教育会等の仕事の見直し、各種行事の精選を行い、業務の削減・改善を図っている。研究会が11月になったことにより、夏季休業明けから、冬季休業までの期間の業務が密になった。夏季休業中に各種行事の準備を行い、効率よく処理するように努めている。

(5) 学校評価の結果について（別紙参照）

- ① 児童・保護者アンケートの結果から
- ② 教員アンケートの結果から

(6) 学校評議員の意見及び指導

令和7年9月3日

令和7年度 第1回 学校評議員会議事録

日 時 令和7年9月3（水）9:00 ～ 10:30

場 所 附属小学校会議室

出席者

木下 貴子 【富山県教育委員会 小中学校課 課長】
田邊 嶽之 【富山港北洋材荷受協同組合理事長】
牧田 和樹 【(株)牧田組代表取締役社長 元 PTA 会長】
山崎 均 【山崎機工(株)代表取締役社長 元 PTA 会長】
荒治 和幸 【元富山県小学校校長】
坂本美奈子 【道文心理研究所所長】
校長、副校長、主幹教諭

各評議員より

〈牧田評議員〉

- ・附属と公立小学校との違いを保護者は独自の解釈をしている。一方で学級ごとの公平性を求めるなどについては、対応が必要ではないか。
他の学校と違うところを前面に出して、それを保護者に理解してもらえばよいのではないか。
- ・7年ルールで、教職員も附属のよさを感じていない部分があるのではないか。在任期間が7年では短い。見直しが必要ではないか。
- ・学校にとって保護者は協力者である。子供が役に立つ人材として成長するために学校がある。その目的を完遂するために保護者に学校への協力を求めるとよい。

〈田邊評議員〉

- ・いじめに対する研修は必要である。今後行うとよい。
- ・学校アンケートで保護者の要望は多くあるが、要望に関する保護者の責務を保護者自身が果たしているかどうかは別である。要求に対しては、学校の目的に応じて取り入れるとよい。

〈山崎評議員〉

- ・道徳科の授業を参観できてよかった。日本には「察する」という文化がある。世界では、「自己責任」の文化がある。ビジネスの世界では、日本の「察する」という文化が通用するかどうかは別である。

- ・学校の遊具が少なくなり、楽しい学校行事も少なくなると、それに代わる仕組みが必要である。座学以外の体験の学習で代替できるものはあるのか？

〈副校長〉

- ・縦割り班での活動を充実させている。学校行事は削減しているので、今ある活動の中で体験活動を充実させていく。

〈校長〉

- ・学校として働き改革の視点で、学校行事を継続するどうかを判断した。例えば、冬の体験学習では、雪不足やバスの配車の問題で削減した。削減は学校としても苦渋の判断である。
- ・宿泊学習は、3年生以上で行っている。

〈荒治評議員〉

- ・あったかハートの取組、継続して取り組まれたことの成果が出ていることを感じる。おたよりやあったかハートTVなど、取組が目に見えることで成果が明らかになっていると感じる。大変だが、続けてほしい。ただ、取組が形骸化しないように見直しもしてほしい。
- ・教科教育の充実を図ってほしい。図画工作科と家庭科の専門教員が今の附属には、いない。全教科・領域をそろえて教育研究発表会をしてほしい。
- ・ふたば会や保護者と教員との関わりはどうなっているのか。資料からは、保護者の協力関係があまり感じられない。授業への協力依頼などを通じて、よりよい関係を築いてほしい。

〈校長〉

- ・以前よりも担任と保護者の関係が希薄になっていることを感じることもある。改善できるように働きかけを継続していく。

〈牧田評議員〉

- ・保護者はかつては教員の味方だった。今は、そうではないと感じる場面があるところに原因がある。

〈坂本評議員〉

- ・今、多様化の社会でみんなが生きにくい。ちょっとした言葉に敏感になっている。
- ・保護者の気持ちに寄り添うことが大切。苦情も関係性があるから言えるのである。

〈荒治評議員〉

- ・学校アンケートをすべて隠さず詳らかにして形で学校から応えていることは素晴らしい。

〈坂本評議員〉

- ・あったかハートの取組で、子供の自己肯定感を高めようとしている学校の姿勢が素晴らしい。苦情は、受け止めてそれに応えるようにしていくとよい。

〈木下評議員〉

- ・子供がいつも伸び伸びしていてよい。
- ・授業で端末の活用が少ないと感じる。個別最適な学習や学び合いを大切にする授業において、端末の活用をどう捉えているのか。
- ・県内の小教研で、教科等の資質・能力を向上するために牽引してもらっている。今後も引き続き取り組んでほしい。

〈副校長〉

- ・今後も研修等を重ねて、授業で端末を有効に活用していきたい。

Ⅵ 第2回学校評議員会より

令和7年度 第2回 学校評議員会

1 日 時 令和8年2月26日(木) 9時00分～10時30分
(学校参観 9時00分～9時20分)

2 会 場 富山大学教育学部附属小学校 会議室

3 内 容

(1) 学校長あいさつ

(2) 今年度の学校運営について

4 令和7年度の重点目標

温かく認め合う心(思いやり、自分に足りない見方や考え方があるなど)が生きる学級と研究主題の解明を目指すハイブリッド運営

5 令和7年度の主な取組

(1) あったか教育の推進と研修について

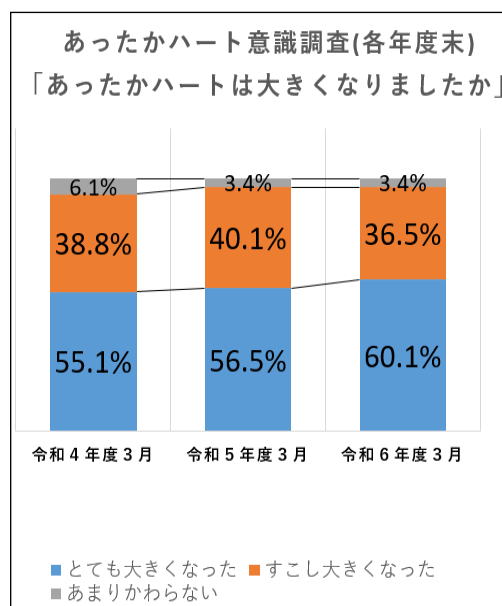
① 温かい学校づくりへ

・学習や生活の基盤となる温かな心の育成を目指して、令和4年度から「あったかハート附属つ子」を合い言葉に、本校の特色を盛り込んだ「あったか教育」を推進してきた。推進するための柱は以下のように、4つ設けた。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 「全校一斉あったかハート推進週間」 | 3 「自己存在感、自己有用感を高める教育活動」 |
| 2 「温かな心を育む環境づくり」 | 4 「子供の心に寄り添う対応」 |

これらの取組により、子供が「あったかハート」の言葉を使って会話や発言をする回数が増えてきた。また、「あったかハート推進週間」で行う道徳科及び学級活動の授業では、友達はもちろん、持ち物にまで思いやりのある働きかけをする大切さに関する発言やノート・記録が多く出されるようになった。さらに、いじめ問題や生徒指導問題を件数や内容と質の面から捉えても、規範意識の高まりとともに、他者を温かくする親切な行為をしようとする子供たちが増えてきている。

なお、令和6年度末までの数値結果は、右のグラフのとおりである。子供たちに、温かな心に対する意識が高まってきていると考え、今後も子供たちの温かな心の育成に取り組みたい。



	とても大きくなった	すこし大きくなった	あまりかわらない
令和4年度末	55.1%	38.8%	6.1%
令和5年度末	56.5%	40.1%	3.4%
令和6年度末	60.1%↑	36.5%	3.4%
令和7年度末			

(2) 研究授業の公開（研究部・情報部）

- ・「あったかハート推進週間」と重ねて、研究会で取組を公開した。目的は、本校のあったか教育を広く知ってもらうことである。
- ・今年度は、学級活動「あったかハートの学級になっているかな」（4年生）公開した。特別活動を専門とする持田先生が富山大学に赴任されており、指導を依頼し、協議会を行った。よりよい人間関係を形成する視点及び、集団生活上の課題解決に向けて助言していただくなど、充実した協議会となった。

(3) 情報モラル教育の推進（指導部・情報部）

- ・今年度は、「あったかハート推進週間」の5月、10月、2月に実施した。
- ・7月に、外部講師（県警少年サポートセンターの方）を招き、中学年、高学年を対象とした「ネットトラブルから自分を守る安全教室」を実施した。（低学年は「くもくん教室（子供を性被害から守る教室）」を実施）

(4) 児童活動におけるあったか教育の推進（指導部）

- ・委員会活動の時間だけでなく、登校後や休み時間にも活動する委員会が見られた。
- ・全校に働きかけるような活動を実施する委員会が見られた。
- ・なかま活動やフロア集会を通して、異学年交流活動を行った。
- ・総合的な学習の時間を用いて、4年生と特別支援学校児童の異学年交流活動を行った。5年生と幼稚園年長児の交流活動を行った。1年生と幼稚園年長児の交流活動も行った。
- ・生活委員会が中心になって「あったかハートを大きくしよう集会」を実施した。令和6年度は、人権、令和7年度は、挨拶を中心とした児童会活動を実施した。

6 いじめ問題の理解と対応に係る研修について

(1) 研究主題の解明に向けて

全教職員や保護者を対象とした、いじめについての研修会を行い、いじめ問題への理解を深め、対応スキルの向上と組織的対応に努めている。保護者を対象とした講演会や児童による集会、附属学校園教職員、教育学部教職員を対象とした研修会も行っている。今年度実施した研修会や講演会、集会は、以下のとおりである。

◇4月2日（水） いじめ防止対策基本方針の共通理解

対 象：附属小学校教職員

◇4月18日（金） いじめ防止対策基本方針の共通理解

対 象：附属小学校保護者

◇7月23日（水） 事例をもとにしたいじめ対応スキル向上研修（事例研修）

テーマ：いじめに係る児童理解とその対応について学ぶ

いじめの早期発見・早期対応・組織的対応に関する留意点を愛確認する

講 師：布瀬 護 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

伊東 史子 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

浜下 知之 先生（富山県総合教育センター教育相談部研究主事）

対 象：附属小学校教職員

◇8月25日（月） いじめ問題理解研修（伝達講習）

内 容：いじめ問題対策について

資 料：令和7年度都道府県・指定都市等生徒指導担当者連絡会議（文部科学省）

対 象：附属学校園教職員

◇10月18日（土） 子供の理解を深める（いじめ理解研修）

テーマ：「親を学び伝える学習プログラムの実践」（各教室）

対 象：附属小学校保護者、附属小学校教職員

◇12月4日（木） いじめ防止のための集会（全校集会）

集会名：あったかハートをもっと大きくしよう集会

対 象：1～6年生、附属小学校教職員

◇12月19日（金） いじめ防止等に関する研修（伝達講習）

内 容：いじめに関する全国の状況について、いじめに関する直近の国の取組について

いじめを未然に防止するために～「いじめの重大化を防ぐための留意事項集」の事例
を基にした協議～

資 料：令和7年度いじめ防止等に関する普及啓発協議会（文部科学省初等中等教育局児童生徒課）

対 象：附属小学校教職員

◇2月2日（月） いじめ問題対応研修

講 師：豊福 晋平 先生（国際大学 GLOCOM 主任研究員/准教授）

対 象：教育学部教職員、附属学校園教職員

(2) 研究主題の解明に向けて

- ・研究主題「他者ととともに編む～他者ととともに編む子供の様相を探る～」を掲げ、3年間の計画で研究を始めた。5月から7月にかけて公開授業研修会を実施、13授業を公開した。
- ・11月22日（土）に教育研究発表会を行った。概要は以下のとおりである。
13授業公開 約300名参観
講 演：「学習指導要領の趣旨の実現に向けた小学校国語科の授業づくり」
講 師：大塚 健太郎 先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官）
- ・現在、次年度に向けて、今年度の成果と課題、副題等について話し合っている。

(3) 教員派遣事業

以下の教諭が県外の研究会に参加した。報告書を読み合うことで、研修で学んだ内容を共有し、互いの資質や能力を向上させることに努めた。

神田教諭 令和7年8月4日～8月5日 筑波大学附属小学校

佐野養護教諭 令和7年11月15日 大阪教育大附属池田小学校

新保教諭 令和8年 1月31日 東京学芸大学附属小金井小学校

(4) 働き方改革

- ・教員一人一人が力量を高め、業務を効率よく短時間でこなすことができるよう努めている。
- ・今年度は、前年度の申請がとおり、特別支援教育支援員及び、業務支援員を配置し、教員の業務の支援をしている。次年度も要望がとおり、予算配分が行われる予定である。
- ・大学には、正規職員配置の増員、補助員の雇用等を要望している。

(5) 少年団活動

- ・吹奏楽部のみの運営となっている。学校は、スケジュール調整や大会参加の支援等の業務に限定して関わっている。

(6) 令和8年度入学児童発育検査及び卒業生の進学先について

① 入学児童発育検査

実施日 令和7年12月15日（月）

		男児	女児	合計
募集人員		35	35	70
附属幼稚園	志願者数	8	17	25
	合格者数	8	17	25
附属幼稚園以外の幼稚園 及び保育所	志願者数	46	29	75
	合格者数	27	18	45

② 卒業生の進学先

附属中学校の入学検査実施日 令和8年1月31日（土）

		男児	女児	合計
在 籍		34	33	67
附属中学校	志願者数	33	33	69
	合格者数	33	33	69
富山県内公立中学校		1	0	1

(7) 学校評価の結果について（別紙参照）

- ① 児童・保護者アンケートの結果から ② 教員アンケートの結果から

(8) 次年度に向けての取組について（令和8年度 教育課程柔軟化サキドリ研究校事業指定）

7 学校評議員の意見及び指導

令和7年度 第2回 学校評議員会議事録

日 時 令和8年2月26日（木）9：00～10：30

9：00～ 9：25 校内を回って授業を参観

場 所 附属小学校会議室

出席者

木下 貴子 【富山県教育委員会 小中学校課 課長】
田邊 嶽之 【富山港北洋材荷受協同組合理事長】
牧田 和樹 【(株)牧田組代表取締役社長 元 PTA 会長】
山崎 均 【山崎機工(株)代表取締役社長 元 PTA 会長】
荒治 和幸 【元富山県小学校校長】
坂本美奈子 【道文心理研究所所長】
校長、副校長、主幹教諭

学校長より

- ・認めあう心を基盤として人間関係をつくることを重点としてきた。
- ・研究主題の解明を目指す中で、子供の力を伸ばそうとしてきた。
- ・課題として保護者との関係があげられる。トラブルの際に、学校はどのように取り組むとよいかが課題である。
保護者にあったか教育への理解と協力を促すために、4月のPTA総会、親学び講座の実施、あったか教育の取組の発信、SCへの相談機械の設定を行った。
- ・サキドリ教育校として来年度、研修等の準備を進めている。

今年度の学校運営について〈副校長から説明〉

各評議員より

〈田邊評議員〉

- ・校内を見学すると、6年生の掲示物では将来の目標で医者と具体的な目標をもっている子供が多かった。
- ・子供が生き生きしている様子が見られた。
- ・全教員にいえることだが、専門分野ではない教科の知識も充実させてほしい。
- ・教員には、教育ではない分野の知識も取り入れて、応用して発揮してほしい。

〈山崎評議員〉

- ・デジタルツールを取り入れている授業が少なかった。
- ・全体的に落ち着いている印象である。
- ・多彩な才能を育んでいる感じが感じられた。
- ・教員のモチベーションのあげ方として、附属小学校に勤務するというステータスを上げていかないと附

属小学校に着任したいと希望する教員がいなくなるのではないかと。県の制度も含めて。

- ・生成 AI の活用が生産を高めるかどうかは今のところ不明である。製造業では、最近「からくり」が流行している。現在あるものを、どのように組み合わせて工夫するかという手法が注目されている。現状でどのように工夫できるかという観点も大切にするとよい。

〈牧田評議員〉

- ・校内の清掃状況がとてもよい。ワークスペースもすっきりしており、とてもよい。
- ・子供が発表に用いるプレゼンテーションスライドは、見やすさだけでなく、国語科で学んだ文章のルール等も指導するとよい。
- ・附属幼稚園については、幼児教育でやり抜くということをいかに習慣化できるかが大切である。附属校園としての課題である。連絡進学制度はやめた方がよい。
- ・学校アンケートに掲載されていた「音楽会の指揮者になれない」などの保護者の意見について考えていくと、社会に出れば理不尽なことばかりであるという、現実の社会の様子につながる。これは、小学校期で教えるべきことである。小学校として要望に対して強い態度で臨むべきである。児童が失敗を経験することも大切である。
- ・教員の多様化については、教員のコミュニケーションをとる機会を増やし、価値観を共有し、揃うことができるようにするとよい。接触の時間を増やすとよい。
- ・サキドリ研究校の取組について、児童の思考力を高めるとよい。そのためにどうすればよいかを考えてほしい。

〈荒治評議員〉

- ・2/20 の新聞にサキドリ研究指定が出ていた。チャンスだと思う。
保護者の自由記述で、学校の特色がよく見えないという意見がある。その解決には、サキドリの事業がぴったりはまる。サキドリ研究の基本線は研究主題に合ったものがよい。教科・領域の延長上にあるとよい。それをどこまで広げるかだと考えている。
- ・5年2組はダンスで文部科学大臣賞を受賞している。このような教科の学習を生かしていく取組を進めていくとよい。附属の魅力の一つである。あったかハートの延長上で「いのち科」など、今あることを無理なくできるようにすることも考えられる。

〈木下評議員〉

- ・あったかハートの取組について、教室の雰囲気がとてもよい。心の中は見えないが、どのような姿を目指すのか、教師の手立ても含めて効果検証等、目指す姿を見える化するとうい。
- ・端末を活用する授業の姿が少ない。児童が社会に出た姿を見据えて、端末を活用するとよい。
- ・サキドリ研究について、県内にぜひ、附属の取組を発信してほしい。

〈坂本評議員〉

- ・サキドリの研究について、教員が前向きに取り組もうとしている反応がよい。
- ・保護者アンケートで、教員がすぐに対応しているという記述があり、学校として素敵だと感じている。県内ではいわゆるモンスターペアレントと呼ばれる保護者の対応が必要なことも多い。